# アヒカルの物語

**導入**

アヒカルの物語は、人類の思想と知恵の最も古い源泉の一つです。その影響は、コーラン、旧約聖書、新約聖書を含む多くの人々の伝説を通して追跡することができます。

ドイツのトレヴェスで発見されたモザイク画には、世界の賢者の中にアヒカルという人物が描かれています。ここに彼の色彩豊かな物語があります。

この物語の年代については活発な議論が交わされてきた。エレファンティネの遺跡で紀元前 500 年のアラム語のパピルスにこの物語の原典が発見され、学者たちは最終的にこの物語が紀元 1 世紀頃であると結論づけたが、これは誤りだった。

この物語は明らかにフィクションであり、歴史ではありません。実際、読者は『アラビアンナイト』の補足ページでこの物語を知ることができます。この物語は見事に書かれており、アクション、陰謀、危機一髪の脱出に満ちた物語は最後まで読者の注意を引き付けます。想像力の自由は作家の最も貴重な財産です。

本書は 4 つの段階に分かれています。(1)物語、(2)教え（一連の注目すべき箴言）、(3)エジプトへの旅、(4)喩え話（これによってアヒカルは誤った道を歩む甥の教育を完結させる）。

**第 1 章**

アッシリアの宰相アヒカルには 60 人の妻がいたが、息子が生まれない運命だった。そこで彼は甥を養子に迎え、パンや水よりも知恵と知識をたっぷり詰め込んだ。
1 王セナケリブの宰相であった賢者ハイカールと賢者ハイカールの妹の息子ナダンの物語。
2 アッシリアとニネベの王、サルハドゥムの息子、セナケリブ王の時代に、ハイカルという名の賢者が宰相としていて、セナケリブ王の宰相であった。
3 彼は、富と財産と多くの品物を持っており、知識、意見、政治において有能で賢明で哲学者でもあり、60 人の女性と結婚し、彼女らそれぞれのために城を建てていた。
4 しかし、そのすべての財産をもってしても、彼にはこれらの女性たちのうち誰からも、彼の後継者となるべき子供が生まれなかった。
5 彼はこのことを非常に悲しみ、ある日、占星術師や学者や魔術師たちを集めて、自分の状態と不妊のことを彼らに説明した。
6 彼らは彼に言った。「行って、神々に犠牲をささげ、男の子を授かるようにと懇願しなさい。」
7 彼は彼らの言うとおりにして、偶像に犠牲をささげ、願いと懇願とをもって彼らに懇願し、懇願した。
8 彼らは何も答えなかった。彼は悲しみと落胆の中で立ち去り、心に痛みを覚えた。
9 そこで彼は帰って、いと高き神に懇願し、信仰し、燃える心で神に懇願して言った。「いと高き神よ、天と地の創造主よ、万物の創造主よ！」
10 どうか私に男の子を与えてください。そうすれば、その子が私を慰め、私の死のそばにいて、私の目を閉じ、私を埋葬してくれるでしょう。」
11 すると、彼に向かって声が聞こえて言った。「あなたはまず彫像に頼り、それに犠牲をささげたので、あなたは一生子供ができないであろう。
12 しかし、あなたの妹の息子ナダンを連れて来て、彼をあなたの子供とし、あなたの学問と良い教養を彼に教えなさい。あなたが死んだら、彼があなたを埋葬するでしょう。』
13 そこで彼は、まだ乳飲み子であった妹のナダンを連れて行き、八人の乳母に託して乳を飲ませて育てさせた。
14 彼らは彼を良い食物と優しい訓練と絹の衣服、紫と深紅の衣で育てた。そして彼は絹の寝床に座った。
15 そしてナダンが成長して歩き、背の高い杉の木のように成長したとき、神はナダンに礼儀作法と書き方と科学と哲学を教えました。
16 そして多くの日が経って、セナケリブ王はハイカルを見て、彼が非常に年老いているのを見て、さらに彼に言った。
17「ああ、私の尊敬する友人よ、あなたは有能で、信頼できる、賢明な、統治者、私の秘書、私の大臣、私の首相、そして監督者です。確かにあなたは非常に年老い、年月を重ねています。そして、あなたがこの世を去る時が近づいているに違いありません。
18 あなたの後に誰が私に仕えるべきか教えてください。」ハイカルは彼に言った。「ああ、私の主よ、あなたの頭が永遠に生き続けますように。私の妹の息子ナダンがいます。私は彼を私の子にしました。
19 そしてわたしは彼を育て、わたしの知恵と知識を彼に教えた。』
20 王は彼に言った。「ハイカルよ、彼を私の前に連れて来なさい。私は彼と会い、もし彼がふさわしいとわかったら、彼をあなたの代わりに任命しなさい。そしてあなたは自分の道を行き、休息を取り、残りの人生を安らかに過ごすのだ。」
21 それからハイカルは行って、妹の息子をナダンに紹介した。そしてナダンは彼に敬意を表し、力と名誉を与えようとした。

22 そして彼は息子を見て感嘆し、喜び、ハイカールに言った。「ハイカールよ、これがあなたの息子ですか。神が彼を守ってくれるよう祈ります。あなたが私と私の父サルハドゥムに仕えたように、あなたのこの息子も私に仕え、私の計画、私の必要、私の仕事を果たしてくださいますように。そうすれば、私はあなたの名誉を高め、あなたのために彼を力づけることができます。」
23 ハイカルは王に敬意を表して言った。「王よ、あなたの頭が永遠に生き続けますように。私の息子ナダンに忍耐し、彼の過ちを許して、彼があなたにふさわしいように仕えるようにしていただきたいのです。」
24 そこで王は、彼を自分の寵臣の中で最も偉大な者、友人の中で最も力のある者にし、すべての名誉と尊敬をもって彼とともにいることを誓った。そして王は彼の手に口づけして別れを告げた。
25 そして彼は妹の息子ナダンを連れて行き、彼を客間に座らせ、夜も昼も彼を教え始め、パンと水よりも多くの知恵と知識を彼に詰め込んだ。

**第 2 章**

古代の「貧乏なリチャードの暦」。お金、女性、服装、仕事、友人に関する人間の行動についての不滅の教訓。特に興味深いことわざは、詩節 12、17、23、37、45、47 にあります。詩節 63 を今日の皮肉な言葉と比較してください。
1 そこで彼は彼にこう教えた。「わが子よ、私の言葉を聞き、私の忠告に従い、私の言うことを覚えておきなさい。
2 わが子よ、もしあなたが言葉を聞くなら、それを心の中で死なせ、それを他の人に漏らしてはならない。そうしないと、それは燃える炭となり、あなたの舌を焼き、あなたの体に痛みを与え、あなたはそしりを得て、神と人の前で恥をかくことになるからである。
3 わが子よ、もしあなたが何かを聞いたなら、それを広めてはならない。もしあなたが何かを見たなら、それを語ってはならない。
4 わが子よ、あなたの雄弁を聞き手に分かりやすくしなさい。そして、答えを急がないようにしなさい。
5 わが子よ、何かを聞いたときは、それを隠してはなりません。
6 わが子よ、封印した結び目を解いてはならない。解いた結び目を封印してはならない。
7 わが子よ、外面の美しさを欲しがってはならない。それは衰え、消え去るものだ。しかし、名誉ある記憶は永遠に残る。
8 わが子よ、愚かな女の言葉に惑わされてはならない。そうしないと、あなたは最も悲惨な死を遂げ、彼女はあなたを網に絡めて、罠にかけてしまうであろう。
9 わが子よ、衣服や香油で飾った、心の底が卑しく愚かな女を欲しがってはならない。もしあなたが彼女にあなたの所有物を与えたり、あなたの手にあるものを彼女に託したりして、彼女があなたを罪に誘い込むなら、あなたは災いを受けるであろう。そして神はあなたに対して怒られるであろう。
10 わが子よ、アーモンドの木のようになってはならない。アーモンドの木は、すべての木よりも先に葉を出し、すべての木よりも後に食べられる実を結ぶ。むしろ、桑の木のようになりなさい。桑の木は、すべての木よりも先に葉を出し、すべての木よりも後に食べられる実を結ぶ。
11 わが子よ、頭を低く垂れ、声を和らげ、礼儀正しく、まっすぐな道を歩み、愚かであってはならない。笑うときには声を荒らげてはならない。大きな声で家が建てられるなら、ロバは毎日多くの家を建てるだろう。力で鋤を動かすなら、鋤はラクダの肩の下から決して外されないだろう。
12 息子よ、石を取り除くのは、知恵のある人と一緒にいるよりも、哀れな人と一緒に酒を飲むよりもよい。
13 わが子よ、あなたの酒を義人の墓に注ぎ、無知で卑しい人々と共に飲むな。
14 わが子よ、神を畏れる賢い人々に付き従い、彼らのようになりなさい。無知な者に近づいてはならない。そうしないと、あなたも彼のようになって、彼のやり方を学ぶことになる。
15 わが子よ、あなたに仲間や友人ができたら、彼を試し、その後、彼を仲間や友人にしなさい。試さずに彼を褒めてはならない。知恵のない人とは言葉を交わしてはならない。
16 わが子よ、あなたの足に靴が残っているうちに、その靴で茨の上を歩き、あなたの息子とあなたの家族と子供たちのために道を作り、あなたの船が海に出航して波に遭い、沈んで救われなくなる前に、船を張りなさい。
17 わが子よ、もし金持ちが蛇を食べると、人々は「それは彼の知恵による」と言い、もし貧乏人がそれを食べると、人々は「彼は飢えていたからだ」と言う。
18 わが子よ、彼は日々の糧と財産で満足し、他人のものをむさぼらない。
19 わが子よ、愚かな者を隣人として扱ってはならない。彼と共にパンを食べてはならない。隣人の災難を喜ぶな。もしあなたの敵があなたに不当な扱いをしたなら、親切を示しなさい。
20 わが子よ、神を畏れる者よ、あなたも神を畏れ敬いなさい。
21 わが子よ、無知な者は倒れてつまずくが、賢い者は、たとえつまずいても動揺せず、倒れてもす

ぐに起き上がり、病気になっても自分の命を守ることができる。しかし、無知で愚かな者の病気には、薬がない。
22 わが子よ、もしあなたより劣る者があなたに近づいて来たら、彼を迎えに進み出て立ち続けなさい。もし彼があなたに報いることができなくても、彼の主が彼に代ってあなたに報いてくださるであろう。
23 わが子よ、あなたの息子を打つことを惜しんではならない。あなたの息子を打つことは、畑に肥料を与えるようなものであり、財布の口を縛るようなものであり、家畜を縛るようなものであり、戸にかんぬきを掛けるようなものだからだ。
24 わが子よ！ あなたの息子があなたに反抗し、人々の間であなたを軽蔑し、あなたが街路や集会で頭を垂れ、彼の邪悪な行為の悪のために罰せられる前に、あなたの息子を邪悪な行いから遠ざけ、礼儀を教えなさい。
25 わが子よ、包皮のある肥えた雄牛と、ひずめの大きなろばを手に入れよ。大きな角のある雄牛を手に入れてはならない。ずる賢い男を友だちにしてはならない。争い好きな奴隷や、盗み好きな女奴隷を雇ってはならない。あなたが彼らに託すものはすべて、彼らに台無しにされるからだ。
26 わが子よ、あなたの両親があなたを呪ってはならない。そうすれば、主は彼らを喜ばれるであろう。なぜなら、こう言われているからだ。「父や母を軽蔑する者は、死に至らしめられよ（罪の死を言う）。両親を敬う者は、その日と命を長く保ち、すべての善を見るであろう。」
27 わが子よ、武器を持たずに道を歩いてはならない。敵がいつあなたに出会うかわからないから、備えをしておかなければならないのだ。
28 わが子よ、葉のない、成長しない木のようであってはならない。むしろ、葉と枝で覆われた木のようになりなさい。妻も子もない人は、葉も実も実らない木のように、世で辱められ、憎まれるからである。
29 わが子よ、道端の実り豊かな木のようになりなさい。その実を道行く人は皆食べ、荒野の獣はその陰で休み、その葉を食べる。
30 わが子よ、道から迷い出た羊やその仲間は皆、狼の餌食となる。
31 わが子よ、主人は愚か者で、私は賢い、などと言ってはならない。また、無知と愚かさの言葉を語ってはならない。そうしないと、主人に軽蔑されるであろう。
32 わが子よ、主人から「私たちから離れなさい」と言われるような僕ではなく、「近づいて、私たちのところに来なさい」と言われるような僕になりなさい。
33 息子よ、奴隷を仲間の前で愛撫してはならない。なぜなら、あなたは最終的に彼らのうちの誰があなたにとって最も価値があるか知らないからだ。
34 息子よ、あなたを創った主を恐れてはならない。そうでないと、主はあなたに対して沈黙されるであろう。
35 わが子よ、あなたの言葉を美しくし、舌を甘くしなさい。あなたの友があなたの足を踏むのを許してはならない。そうしないと、彼はまた別の時にあなたの胸を踏むことになる。
36 わが子よ、もしあなたが賢い人を知恵の言葉で打つならば、それはかすかな恥辱感のように彼の胸に潜むだろう。しかしもしあなたが無知な人を棒で打つならば、彼は理解することも聞くこともないだろう。
37 わが子よ、もしあなたが賢い人をあなたの用事のために遣わすなら、彼に多くの命令を下すな。彼はあなたの望む通りにするだろう。もしあなたが愚かな人を遣わすなら、彼に命令を下すな。自分で行ってあなたの用事をしなさい。彼に命令しても、彼はあなたの望むことをしないだろう。もし彼らがあなたに用事を遣わすなら、急いでそれを成し遂げなさい。
38 わが子よ、自分より強い者を敵に回すな。彼はあなたを裁き、あなたに復讐するだろうから。
39 わが子よ、あなたの財産を彼らに託す前に、あなたの息子とあなたのしもべとを試しなさい。そうしないと、彼らはそれを盗んでしまいます。手に満ちた者なら、たとえ愚かで無知であっても、賢い者と呼ばれ、手に何もない者は、たとえ賢者の中の君主であっても、貧しく無知な者と呼ばれるからです。
40 わが子よ、私はコロシントを食べ、アロエを飲み込んだが、貧困と欠乏よりも苦いものは何もなかった。
41 わが子よ、あなたの息子に倹約と飢えを教えなさい。そうすれば、彼は家庭の管理をうまく行えるでしょう。
42 わが子よ、賢者の言葉を無知な者に教えてはならない。それは彼にとって重荷となるからだ。
43 わが子よ、あなたの状態をあなたの友人に見せてはならない。そうしないと、彼に軽蔑されることになる。
44 わが子よ、心の盲目は目の盲目よりも悲惨である。目の盲目は少しずつ導かれるかもしれないが、心の盲目は導かれず、まっすぐな道から外れて曲がった道を進んでしまうからである。
45 わが子よ、人が足でつまずくのは、舌でつまずくよりもよい。
46 わが子よ、近くにいる友は、遠くにいる優れた兄弟よりも優れている。

47 息子よ、美は衰えるが学識は存続する。世は衰え、むなしとなるが、名声はむなしにも衰えることもない。
48 わが子よ、安息のない人にとっては、その死はその命よりも良い。泣き声は歌声よりも良い。悲しみと泣き声は、神を畏れる心があれば、歌声や喜びの声よりも良いからである。
49 わが子よ、あなたの手にある蛙のももは、隣人のかまどにあるがちょうよりもよい。あなたの近くの一匹の羊は、遠くにいる一頭の牛よりもよい。あなたの手にある一羽の雀は、飛んでいる一千羽の雀よりもよい。貧しさが集めることは、多くの食料を散らすことよりもよい。生きている狐は、死んだライオンよりもよい。一ポンドの羊毛は、一ポンドの金銀の富よりもよい。金銀は地中に隠されて覆われていて、見えないが、羊毛は市場に残っていて、見られるし、それを着る人にとっては美しい。
50 わが子よ、小さな財産は散らばった財産よりもよい。
51 息子よ、生きている犬は死んだ貧しい人よりもよい。
52 わが子よ、正義を行う貧しい人は、罪の中に死んでしまった金持ちよりも良いのです。
53 わが子よ、心に言葉を留めておきなさい。そうすれば、それはあなたにとって大きなものとなるでしょう。そして、友人の秘密を漏らして損をしないように気をつけなさい。
54 わが子よ、心と相談するまでは、一言も口から出てはならない。争い合っている人の間に立ってはならない。悪口から争いが起こり、争いから戦争が起こり、戦争から戦いが起こり、あなたは証言を強いられることになる。むしろそこから逃げて、安らかに眠りなさい。
55 わが子よ、自分より強い者に抵抗してはならない。むしろ、忍耐の心と忍耐と、正しい行いを身につけなさい。これより優れたものは何もないからである。
56 息子よ、最初の友を憎んではならない。二番目の友は長続きしないかもしれないからだ。
57 息子よ、苦しんでいる貧しい人々を訪れ、スルタンの前で彼らについて語り、彼らをライオンの口から救うために全力を尽くしなさい。
58 わが子よ、敵の死を喜ぶな。もう少しすればあなたも彼の隣人となり、あなたを嘲笑う者を敬い、敬意を表し、先に挨拶しなさい。
59 わが子よ！もし天の水が止まり、黒いカラスが白くなり、没薬が蜂蜜のように甘くなったら、無知な人々や愚か者も理解し、賢くなるだろう。
60 わが子よ、もしあなたが賢くなりたいと思うなら、あなたの舌を制して偽りを言わないようにし、あなたの手を制して盗みをしないようにし、あなたの目を制して悪を見ないようにしなさい。そうすれば、あなたは賢者と呼ばれるでしょう。
61 わが子よ！賢者はあなたを鞭で打つがよい、しかし愚者はあなたに甘い軟膏を塗ってはならない。若いときに謙虚であれ、そうすれば老後には尊敬されるであろう。
62 わが子よ、人が全盛のときに抵抗してはならない。川が氾濫するときに抵抗してはならない。
63 息子よ、妻との結婚を急ぐな。うまくいけば、彼女は「主よ、私のために準備をしてください」と言うだろう。うまくいかなければ、彼女はその原因となった者を非難するだろう。
64 わが子よ、服装が上品な人は、言葉遣いも上品な人である。服装が下品な人は、言葉遣いも下品である。
65 息子よ、もしあなたが盗みを犯したのなら、それをスルタンに告げ、その一部を彼に与えなさい。そうすれば、あなたは彼から救われるでしょう。さもなければ、あなたは苦しみに耐えることになるからです。
66 わが子よ、手が満たされて満たされている人を友としなさい。そして、手が閉じて飢えている人を友とするな。
67 王もその軍隊も安全でいられないことが四つある。それは、宰相による圧制、悪政、意志の歪曲、臣民に対する暴政である。そして、隠し切れないものが四つある。それは、賢い者と愚かな者と金持ちと貧乏人である。

## 第 3 章

アヒカルは国政への積極的な関与から退き、自分の財産を裏切り者の甥に引き渡します。これは、恩知らずの放蕩者が偽造者になる驚くべき物語です。アヒカルを陥れようとする巧妙な陰謀により、彼は死刑を宣告されます。どうやらこれがアヒカルの最後です。
1 ハイカールはこう言った。そして、妹の息子であるナダンにこれらの戒めと格言を語り終えたとき、彼はナダンがそれをすべて守るだろうと想像した。そして、それどころか、ナダンに対して疲労と軽蔑と嘲笑を示していたことには気づかなかった。
2 その後、ハイカルは家に座り続け、自分の所有物、奴隷、女中、馬、牛、その他自分が所有し獲得したすべてのものをナダンに引き渡した。命令と禁止の権限はナダンの手に残された。
3 ハイカルは家の中で休息し、時々王の所へ行って敬意を表し、家へ帰って行った。
4 さて、ナダンは命令と禁止の権力が自分の手中にあることに気づき、ハイカールの地位を軽蔑して嘲り、ハイカールが現れるたびに非難して言った。

「私の叔父ハイカールは老齢で、今は何も知らないのだ。」
5 そして彼は奴隷や女奴隷を殴り、馬やらくだを売り、叔父ハイカルが所有していたすべてのものを浪費し始めた。
6 ハイカルは、彼が自分の家臣にも家族にも同情心がないのを見て、立ち上がって彼を家から追い出し、王に人をやって、彼が自分の財産と食料を散らかしたことを知らせた。
7 王は立ち上がってナダンを呼び、こう言った。「ハイカルが健康である間は、彼の財産や家や所有物を管理する者は誰もいないであろう。」
8 そしてナダンの手は叔父ハイカルとそのすべての財産から離され、その間彼は出入りせず、また彼に挨拶もしなかった。
9 そこでハイカルは妹の息子ナダンとの苦労を悔い、非常に悲しみ続けた。
10 ナダンにはベヌザルダンという名の弟がいたので、ハイカルはナダンの代わりに彼を自分のところに迎え入れ、最大限の敬意をもって彼を育て、尊厳を与えた。そして、自分の全財産を彼に渡し、彼を家の支配者にした。
11 さて、ナダンは何が起こったかを知ると、妬みと嫉妬にとらわれ、尋問するすべての人に不平を言い始め、叔父のハイカルを嘲笑して言った。「叔父は私を家から追い出し、私よりも弟を優先しました。しかし、いと高き神が私に力を与えたなら、私は彼に殺されるという不幸をもたらすでしょう。」
12 そしてナダンは、彼のためにどんなつまずきの石を考案できるかについて瞑想を続けました。そしてしばらくして、ナダンは心の中でそれを考え直し、ペルシャ王賢王シャーの息子アキシュに手紙を書き、次のように言いました。
13 アッシリアとニネベの王セナケリブと、その大臣と書記官ハイカルから、偉大なる王よ、あなたに平和と健康と力と名誉がありますように。あなたと私の間には一銭の金銭がありますように。
14 この手紙があなたに届いたら、あなたが立ち上がって、急いでニスリンの平野、アッシリア、ニネベに行くなら、私は戦争も戦闘態勢もとらずに、王国をあなたに引き渡そう。」
15 彼はまた、ハイカルの名でエジプトの王ファラオにもう一通の手紙を書き送った。「偉大なる王よ、どうか私とあなたとの間に平和がありますように。」
16 もしこの手紙があなたに届く頃に、あなたが立ち上がって、アッシリヤとニネベのニスリンの平野に行くなら、私は戦争も戦闘もせずに、王国をあなたに引き渡します。」
17 ナダンの書いたものは、彼の叔父ハイカルの書いたものと似ていた。
18 それから彼は二通の手紙を折り、叔父ハイカルの印章で封印した。しかし、手紙は王宮に残されていた。
19 それから彼は行って、同じように王から叔父ハイカールに手紙を書いた。『私の大臣、私の秘書、私の大臣ハイカールに平安と健康を。
20 ハイカルよ、この手紙があなたに届いたら、あなたと共にいるすべての兵士を集め、彼らの服装と人数を完璧にし、5 日目にニスリンの平野で私に連れて来なさい。
21 そして、あなたがわたしがあなたのほうに来るのを見たら、急いで軍隊を進軍させて、わたしと戦う敵のようにしなさい。わたしにはエジプトの王ファラオの使節団が同行しているから、彼らはわたしたちの軍隊の強さを見て、わたしたちを恐れるだろう。彼らはわたしたちの敵であり、わたしたちを憎んでいるのだ。」
22 それから彼はその手紙に封印を施し、王の召使の一人を通してそれをハイカルに送った。そして彼は自分が書いたもう一つの手紙を取り、それを王の前に広げて読み上げ、封印を見せた。
23 王はその手紙の内容を聞いて、非常に困惑し、激しく憤って言った。「ああ、私は自分の知恵を出しすぎてしまった。ハイカルが私の敵にこれらの手紙を書いたのは、私が彼に何をしたからだろうか。これは私が彼に与えた恩恵に対する報いなのか。」
24 ナダンは彼に言った。「王よ、悲しまないでください。また怒らないでください。ニスリンの平原に行って、その話が本当かどうか確かめましょう。」
25 ナダンは五日目に立ち上がり、王と兵士たちと大臣を連れて、ニスリンの平野の砂漠へ向かった。王が見ると、なんとハイカルと軍隊が整列していた。
26 ハイカルは王がそこにいるのを見て、近づいて軍隊に合図し、手紙に書かれていたとおりに軍勢を動かして王と戦うように命じたが、ナダンが自分のためにどんな穴を掘ったのかは知らなかった。
27 王はハイカルの行為を見て、不安と恐怖と困惑に襲われ、激怒した。
28 ナダンは彼に言った。「王様よ、この悪党が何をしたかご覧になりましたか。しかし、怒ったり、悲しんだり、苦しんだりしないでください。ただ、あなたの家に行って、王座に座りなさい。私はハイカルを縛り、鎖でつないだままあなたのところに連れて行き、苦労せずにあなたの敵をあなたのところから追い払います。」
29 王はハイカルのことで憤慨しながらも王座に戻り、彼に関しては何もしなかった。ナダンはハイカルのところへ行き、こう言った。「わあ、叔父

さん！ 王はあなたに大喜びしており、王があなたに命じたことを実行してくれたことに感謝します。
30 そして今、彼は私をあなたのところへ遣わし、あなたは兵士たちを任務から解散させ、両手を後ろで縛られ、両足を鎖でつないだまま、彼のもとへ来るようにと命じました。そうすれば、ファラオの使者たちもこれを見て、彼らと彼らの王が王を恐れるようになるからです。」
31 するとハイカルは答えて言った。「聞くことは従うことです。」すると彼はすぐに立ち上がり、彼の手を後ろで縛り、足を鎖で縛った。
32 ナダンは彼を連れて王のもとへ行き、ハイカルが王の前に出ると、地面にひれ伏して王に敬意を表し、王に力と永遠の命を願った。
33 すると王は言った。「ああ、ハイカールよ、私の秘書、私の事務の総督、私の宰相、私の国の統治者よ、私があなたにどんな悪事をしたので、あなたはこの醜い行為で私に報いたのか教えてください。」
34 それから彼らは、彼の筆跡と印章に書かれた文字を彼に見せた。ハイカルがこれを見ると、彼の手足は震え、舌はすぐに動かなくなり、恐怖のあまり一言も話せなくなった。彼は頭を地面に垂れ、口がきけなくなった。
35 王はこれを見て、それが自分から出たものであると確信し、すぐに立ち上がって、ハイカルを殺し、町の外で剣で彼の首を切るように命じました。
36 するとナダンは叫んで言った。「ああ、ハイカールよ、黒塗りの男よ！ 王に対してこのような行為をすることで、お前の瞑想や権力が何の役に立つのだ？」
37 物語の語り手はこう語る。剣士の名はアブ･サミクであった。王は彼に言った。「剣士よ、立ち上がれ、行け、ハイカルの首を家の戸口で切り裂き、その首を体から百キュビト離せ。」
38 するとハイカルは王の前にひざまずいて言った。「王様、どうか永遠に生き続けてください。もし私を殺したいのなら、あなたの望みをかなえさせてください。私は罪を犯していないと知っていますが、悪人は自分の悪事の責任を問われます。それでも、王様、どうか、どうかあなたとあなたの友情に懇願します。剣士が私の遺体を奴隷たちに渡し、彼らが私を埋葬し、あなたの奴隷をあなたの犠牲とすることを許可してください。」
39 王は立ち上がり、剣士に自分の望みどおりにするように命じた。
40 そして彼はすぐに家来たちに命じて、ハイカルと剣士を連れて裸で彼と一緒に行き、彼を殺すようにした。
41 ハイカルは自分が殺されることを確信したとき、妻に人をやってこう言った。「出てきて私を迎えなさい。千人の若い処女を連れて行き、紫と絹のガウンを着せて、私が死ぬ前に私のために泣いてもらうようにしなさい。」
42 剣士とその家来たちのために食卓を用意し、彼らに飲ませるためにたくさんの酒を混ぜなさい。
43 彼女は彼が命じたことを全て実行した。彼女は非常に賢く、聡明で、思慮深く、あらゆる礼儀正しさと学識を兼ね備えていた。
44 王の軍隊と剣士が到着すると、テーブルは整えられ、ワインや豪華な食事が用意されており、彼らは満腹になるまで食べたり飲んだりして酔っぱらった。
45 それからハイカルは剣士を一行から引き離して言った。「アブ･サミクよ、セナケリブの父である王サルハドゥムがお前を殺そうとしたとき、私がお前を連れて行って、王の怒りが収まり、王がお前を呼ぶまで、ある場所に隠していたことを知らないのか。
46 わたしがあなたを彼の御前に連れて行ったとき、彼はあなたのことを喜んだ。今、わたしがあなたに示した親切を思い出しなさい。
47 そして私は、王が私について後悔し、私を処刑することについて大いに怒るであろうことを知っています。
48 わたしは罪を犯していません。あなたがわたしを王宮の御前に引き立てるとき、あなたは大いなる幸運に恵まれ、わたしの妹の息子ナダンがわたしを欺いて悪事を働いたことを知るでしょう。そして王はわたしを殺したことを悔い改めるでしょう。そして今、わたしは家の庭に地下室を持っていますが、誰もそのことを知りません。
49 妻に内緒で私をその中に隠してください。私には、殺されるべき奴隷が牢の中にいます。
50 彼を連れ出し、私の衣を着せ、酔った召使いたちに命じて彼を殺させなさい。彼らは、だれを殺しているのか分からないでしょう。
51 そして、彼の頭をその体から百キュビト離し、その体を私の奴隷たちに渡して埋葬させなさい。そうすれば、あなたは私と共に大きな宝物を築くことになるでしょう。
52 そして剣士はハイカルの命令どおりに行動し、王のもとへ行き、こう言った。「汝の首が永遠に生き続けますように。」
53 それからハイカルの妻は隠れ家に毎週、彼に足りるだけのものを下ろしたが、彼女以外の誰にもそのことは知られていなかった。
54 そして、賢者ハイカールが殺害され死亡したという話はあらゆる場所に伝えられ、繰り返され、広まり、その町のすべての人々が彼のために嘆き悲しんだ。
55 彼らは泣きながら言った。「ああ、ハイカールよ、あなたの学識と礼儀正しさが残念だ。あなたとあなたの知識がなんと悲しいことか。あなたの

ような人物がどこにいるというのか。あなたの代わりを務めるほど、あなたに似た聡明で、学識があり、統治に長けた人物がどこにいるというのか。」
56 しかし王はハイカルのことを悔い改めていたが、その悔い改めは何も役に立たなかった。
57 そこで彼はナダンを呼び寄せて言った。「友達を連れて行って、叔父ハイカルのために悲しみ、泣き、慣例に従って彼のために嘆き、彼を偲びなさい。」
58 しかし、愚かで、無知で、心の頑固なナダンは、叔父の家に行っても、泣くことも悲しむことも嘆くこともせず、むしろ、無情で放蕩な人々を集めて、食べたり飲んだりし始めた。
59 そしてナダンはハイカルに属する女奴隷たちを捕らえ、縛り、拷問し、ひどく殴りつけた。
60 彼は、自分の息子のように彼を育てた叔父の妻を敬わず、彼女が自分と一緒に罪に陥ることを望んだ。
61 しかしハイカルは隠れ場所に閉じ込められ、奴隷や隣人たちの泣き声を聞いて、慈悲深い至高の神を讃え、感謝し、常に至高の神に祈り、懇願した。
62 ハイカールが隠れている間、剣士は時々彼のところにやって来た。ハイカールは来て彼を慰め、救出を願った。
63 そして、賢者ハイカールが殺害されたという話が他の国々に伝えられると、すべての王は悲しみ、セナケリブ王を軽蔑し、謎を解くハイカールのことを嘆いた。

## 第 4 章

「スフィンクスの謎」アヒカルに一体何が起こったのか。彼の帰還。
1 エジプトの王はハイカルが殺害されたことを確認すると、すぐに立ち上がってセナケリブ王に手紙を書き、その中で『我が最愛の兄弟、セナケリブ王よ、我々が特にあなたに願う平和と健康と力と名誉について』と記した。
2 私は天と地の間に城を建てたいと願っています。どうか、あなたの中から賢くて聡明な人を遣わして、私のために城を建てて、私のすべての質問に答えてもらい、アッシリアの税金と関税を三年間徴収してもらいたいのです。」
3 それから彼は手紙を封印し、セナケリブに送りました。
4 彼はそれを取って読み、自分の国の大臣や貴族たちに渡した。彼らは困惑し、恥じ入った。彼は激怒し、どう行動すべきか途方に暮れた。
5 そこで彼は、老人、学者、賢者、哲学者、占い師、占星術師、そして自分の国にいるすべての人々を集め、彼らに手紙を読んで言った。「あなたたちのうち、だれがエジプトの王ファラオのもとに行って、彼の質問に答えますか。」
6 彼らは彼に言った、「ああ、私たちの主君、王よ、あなたの王国には、あなたの大臣であり書記官であるハイカル以外に、これらの問題に精通している人は一人もいないことをご承知ください。
7 しかし、私たちには、彼の妹の息子であるナダン以外には、このことについて何の知識もありません。彼は彼にすべての知恵と学問と知識を教えたからです。彼をあなたのところに呼んでください。おそらく彼はこの固い結び目を解いてくれるでしょう。」
8 そこで王はナダンを呼び寄せて言った。「この手紙を見て、そこに何が書いてあるか知りなさい。」ナダンはそれを読んで言った。「わが主よ、天と地の間に城を建てることができるのはだれでしょうか。」
9 王はナダンの言葉を聞いて、非常に深い悲しみに襲われ、王座から降りて灰の中に座り、ハイカルのことで泣き叫び始めた。
10 こう言った。「ああ、悲しいことだ! ハイカールよ、秘密と謎を誰が知っていたのか! ハイカールよ、あなたのために私は不幸だ! わが国の教師、わが王国の統治者よ、あなたのような人をどこに見つければいいのか? ハイカールよ、わが国の教師よ、あなたのためにどこに頼ればいいのか? あなたのために私は不幸だ! どうして私はあなたを滅ぼしてしまったのか! そして私は、知識もなく、信仰もなく、男らしさもない愚かで無知な少年の話に耳を傾けていた。
11 ああ、また、ああ、私自身のために! 誰があなたを一度だけ私に与えることができ、あるいはハイカルが生きているという知らせを私に伝えることができるでしょうか? 私は彼に私の王国の半分を与えるでしょう。
12 これはどうして私に起こるのでしょうか。ああ、ハイカール!私はあなたを一度だけ見ることができ、あなたを見つめ、あなたを喜ぶことに飽き足りることができたのです。
13 ああ、わたしは永遠にあなたを悲しんでいる。ああ、ハイカルよ、どうしてわたしはあなたを殺してしまったのか。わたしは事の結末を見るまで、あなたの件に留まらなかったのだ。」
14 そして王は夜も昼も泣き続けた。剣士は王の怒りとハイカルに対する悲しみを見て、彼に対する心を和らげ、王の前に近づいて言った。
15「ああ、主君よ!家来たちに私の首を切るよう命じてください。」すると王は彼に言った。「アブ・サミクよ、あなたは災いを受けています。あなたの罪は何ですか?」

16 すると、剣士は彼に言った。「主人よ、主人の言葉に背く奴隷は皆殺しにされます。しかし、私はあなたの命令に背きました。」
17 すると王は彼に言った。「アブ･サミクよ、あなたは災いを受けます。私の命令に背いて何をしたのですか。」
18 そして剣士は彼に言った。「ああ、私の主よ！あなたは私にハイカルを殺すように命じました、そして私はあなたが彼について悔い改めるであろうことを知っていました、そして彼は不当に扱われたので、私は彼をある場所に隠し、彼の奴隷の一人を殺しました、そして彼は今安全に井戸の中にいます、あなたが私に命じるなら、私は彼をあなたのところに連れて行きます。」
19 王は彼に言った。「アブ･サミクよ、あなたは災いを受けます。あなたは私を嘲笑しました。私はあなたの主人です。」
20 すると剣士は彼に言った。「いいえ、私の主君よ、あなたの命にかけて言います。ハイカルは無事で生きています。」
21 王はその言葉を聞いて、そのことを確信し、頭がくらくらし、喜びのあまり気を失いそうになり、ハイカルを連れて来るように命じた。
22 そして彼は剣士に言った。「忠実な僕よ！もしあなたの言葉が真実なら、私はあなたを豊かにし、あなたの威厳をあなたの友人全員よりも高めたいのですが。」
23 そして剣士は喜びながら進み、ついにハイカルの家に着いた。そして隠れ家の扉を開けて降りると、ハイカルが座って神を賛美し、感謝しているのを見つけた。
24 そして彼は彼に向かって叫んだ。「ああ、ハイカルよ、私は最大の喜びと幸福と楽しみをもたらす！」
25 ハイカルは彼に言った。「アブ･サミクよ、何の知らせか。」そして彼はファラオのことを最初から最後まですべて話した。そして彼は彼を連れて王のもとへ行った。
26 王が彼を見ると、彼は困窮しており、髪は野獣のように伸び、爪は鷲の爪のようになり、体はほこりで汚れ、顔の色は変わって褪せ、灰のようになっていた。
27 王は彼を見て悲しみ、すぐに立ち上がり、彼を抱きしめ、口づけし、彼のために泣きながら言った。「あなたを私のところへ連れ戻してくれた神をほめたたえます。」
28 そこで彼は彼を慰め、慰め、自分の衣を脱がせて剣士に着せ、非常に親切にし、多くの富を与えてハイカルを休ませた。
29 そこでハイカルは王に言った。「王様、どうか永遠に生き続けてください。これが世の子らの行いです。私は棕櫚の木を育てて、それに寄りかかろうとしましたが、それが横に曲がって、私を倒してしまいました。
30 しかし、主よ、私があなたの前に現れた以上、心配してあなたを苦しめないでください。王は彼に言った。「あなたに慈悲を示し、あなたが不当に扱われたことを知り、あなたを救い、殺されることから救い出した神は祝福されます。」
31 しかし、温かい風呂に入り、頭を剃り、爪を切り、衣服を着替え、40 日間楽しく過ごしなさい。そうすれば、あなた自身に良いことをして、体調を良くし、顔色を取り戻すことができるでしょう。」
32 そこで王は高価な衣服を脱ぎ捨ててハイカルに着せた。ハイカルは神に感謝し、王に敬意を表し、喜びと幸福を感じながら、いと高き神を賛美しながら自分の住まいへ帰って行った。
33 そして、彼の家の者たちは彼とともに喜び、彼の友人たちや、彼が生きていると聞いたすべての人々も喜んだ。

## 第 5 章

「謎」の手紙がアヒカルに示されます。少年たちは鷲に乗ります。最初の「飛行機」に乗ります。エジプトへ出発します。知恵のある男であるアヒカルはユーモアのセンスも持っています。（詩 27）。
1 彼は王の命じたとおりにして、四十日間休んだ。
2 それから彼は最も華やかな服を着て、喜びと歓喜にあふれながら、奴隷たちを後ろに従え、王のもとへ馬で向かった。
3 しかし、妹の息子ナダンは、何が起こっているのかを知ると、恐怖と戦慄に襲われ、どうしたらよいか分からず困惑した。
4 ハイカルはそれを見て王の前に出て、王に挨拶した。王も挨拶を返し、ハイカルを自分の傍らに座らせて言った。
「ああ、私の愛しいハイカールよ！エジプトの王が、あなたが殺されたと聞いて私たちに送ったこれらの手紙を見てください。
5 彼らは我々を怒らせ、我々を打ち負かしました。そして、エジプトの王が我々に課す税金を恐れて、我々の国の多くの民がエジプトに逃げました。
6 それからハイカルは手紙を受け取り、それを読んでその内容を理解しました。
7 そこで彼は王に言った。「わが主よ、怒らないでください。私はエジプトへ行き、ファラオに返事を返し、この手紙を見せ、税金について答えます。逃げた者を皆送り返します。そして、いと高き神の助けと、あなたの王国の幸福のために、あなたの敵を恥じ入らせます。」

8 王はハイカルのこの言葉を聞いて大いに喜び、心が広がり、彼に好意を示した。
9 ハイカルは王に言った。「この問題を検討し、解決するために、私に 40 日間の猶予を与えてください。」王はこれを許可した。
10 ハイカルは自分の家へ行き、猟師たちに二羽の若い鷲を捕らえるように命じた。彼らはそれを捕らえて自分のところへ連れて来た。また、縄を編む者たちに、それぞれ二千キュビトの長さの綿の縄を二本編むように命じた。また、大工たちを呼び寄せて、二つの大きな箱を作るように命じた。彼らはそれを作った。
11 それから彼は二人の少年を連れて行き、毎日子羊を犠牲に捧げ、鷲と少年たちに餌を与え、少年たちを鷲の背に乗せ、彼らを固い結び目で縛り、綱を鷲の足に結びつけ、彼らが慣れて訓練されるまで、毎日少しずつ十キュビトずつ高く舞い上がらせた。そして少年たちは綱の全長を空まで舞い上がり、少年たちは彼らの背中に乗っていた。それから彼は彼らを自分のところに引き寄せた。
12 ハイカルは自分の望みが叶ったのを見て、少年たちに、空高くまで運ばれたらこう叫ぶように命じた。
13 「粘土と石を持って来なさい。私たちは怠け者なので、ファラオ王のために城を建てましょう。」
14 そしてハイカールは、彼らが可能な限り最高のレベルに達するまで、彼らを訓練し、鍛えることを決してやめなかった。
15 それから彼は彼らを残して王のもとに行き、こう言った。「わが主よ、あなたの望みどおりに工事は完了しました。私と一緒に立ちなさい。この不思議なことをお見せしましょう。」
16 そこで王は立ち上がってハイカルと共に座り、広い場所に行き、人をやって鷲と少年たちを連れてこさせた。ハイカルは彼らを縛り、綱の全長にわたって空中に放った。すると彼らは王が教えたとおりに叫び始めた。それから王は彼らを自分のところに引き寄せ、それぞれの場所に置いた。
17 王と彼と共にいた者たちは大いに驚嘆した。王はハイカルの目の間に口づけして彼に言った。「わが愛する者よ、わが王国の誇りよ、安心してエジプトに行き、ファラオの質問に答え、いと高き神の力で彼に打ち勝ちなさい。」
18 そこで彼は王に別れを告げ、軍隊と軍勢、若者たちと鷲たちを率いてエジプトの住居に向かい、到着すると王の国に向かった。
19 エジプトの人々は、セナケリブが枢密顧問官の一人をファラオと話し合い、質問に答えるために派遣したことを知り、その知らせをファラオ王に伝えた。そこでファラオは枢密顧問官の一団を派遣して、セナケリブをファラオの前に連れて来させた。
20 彼はファラオの前に出て行き、王たちにふさわしく彼に敬意を表した。
21 彼は言った。「ああ、我が主君、王よ。セナケリブ王は、豊かな平和と力と栄誉をもってあなたを歓迎します。
22 そして、主は、あなたの質問に答え、あなたの望みをことごとくかなえるために、奴隷のひとりである私を遣わされました。あなたは、天と地の間に城を建ててくれる人を、主君である王のもとに探すようにと、遣わされたのです。
23 そして私は、いと高き神の助けと、あなたの高貴な恵みと、私の主君である王の力によって、あなたの望みどおりにそれを建てます。
24 しかし、王様、わが主よ、あなたがその中でエジプトの三年間の税金についておっしゃったことは、王国の安定とは厳格な正義であり、もしあなたが勝ち、私の手があなたに答えることができないなら、王様、わが主よ、あなたがおっしゃった税金をあなたに送るでしょう。
25 そして、もし私があなたの質問に答えたならば、あなたが述べたことをすべて私の主君である王に送っていただくことになります。」
26 ファラオはその言葉を聞いて、その舌の自由さと言葉の美しさに驚き、当惑した。
27 ファラオ王は彼に言った。「人よ、あなたの名前は何というのですか。」彼は答えた。「あなたのしもべはアビカムです。私はセナケリブ王の蟻の中の小さな蟻です。」
28 ファラオは彼に言った。「あなたの主君には、あなたよりも高貴な人がいなかったのか。私に答え、私と話し合うために、小さな蟻を私に遣わしたのか。」
29 ハイカルは彼に言った。「ああ、我が主君、王よ！ 私は至高の神に、あなたのお考えを叶えさせていただきたいのです。神は弱い者と共におられ、強い者を打ち破られるからです。」
30 そこでファラオは、アビカムのために住居を用意し、飼料、肉、飲み物など、必要なものをすべて彼に与えるように命じた。
31 そしてそれが完成して三日後、ファラオは紫と赤の衣をまとって王座に着き、彼のすべての大臣と王国の有力者たちは手を組み、足を揃え、頭を下げて立っていました。
32 ファラオはアビカムを呼び寄せるために人を遣わした。アビカムがファラオの前に現れると、彼はファラオの前でひれ伏し、ファラオの前の地面に口づけした。
33 ファラオ王は彼に言った。「アビカムよ、わたしはだれに似ているのか。わたしの国の貴族たちはだれに似ているのか。」

34 ハイカルは彼に言った。「私の親族である主よ、あなたは偶像ベルのようであり、あなたの王国の貴族たちは彼の家来のようです。」
35 彼は彼に言った。「行って、明日ここに戻って来なさい。」それでハイカルはファラオ王が命じたとおりに出かけた。
36 翌日、ハイカルはファラオの前に行き、お辞儀をして王の前に立った。ファラオは赤い衣を着ており、貴族たちは白い衣を着ていた。
37 ファラオは彼に言った。「アビカムよ、私は誰に似ているのか。私の国の貴族たちは誰に似ているのか。」
38 アビカムはファラオに言った。「ああ、わが主よ。あなたは太陽のようであり、あなたの家来たちはその光のようです。」ファラオは彼に言った。「あなたの住まいへ行き、明日ここに来なさい。」
39 そこでファラオは廷臣たちに純白の服を着るよう命じた。ファラオ自身も彼らと同じ服を着て玉座に座り、ハイカルを連れて来るように命じた。ハイカルは入って来て、ファラオの前に座った。
40 ファラオは彼に言った。「アビカムよ、わたしはだれに似ているのか。わたしの貴族たちはだれに似ているのか。」
41 アビカムは彼に言った。「ああ、私の主よ。あなたは月のようであり、あなたの貴族たちは惑星や星のようです。」ファラオは彼に言った。「行きなさい。明日はここにいなさい。」
42 そこでファラオは家来たちに様々な色の衣を着るように命じた。ファラオは赤いビロードの衣を着て王座に座り、家来たちにアビカムを連れて来るように命じた。そして家来は入って来て、アビカムの前にひれ伏した。
43 彼は言った。「アビカムよ、私は誰に似ているのか。私の軍隊は誰に似ているのか。」彼は言った。「私の主よ、あなたは 4 月のようであり、あなたの軍隊はその花のようです。」
44 王はこれを聞いて大いに喜び、こう言った。「ああ、アビカムよ、あなたは最初、私を偶像ベルに、私の貴族たちを彼の家来に例えた。
45 そして二度目には、あなたは私を太陽に、私の貴族たちを太陽の光に例えました。
46 そして三度目にあなたは私を月に、私の貴族たちを惑星や星に例えました。
47 そして四度目には、あなたは私を四月の月、私の貴族たちをその花に例えました。しかし今、アビカムよ、あなたの主君、セナケリブ王は誰に似ているのか教えてください。そして彼の貴族たちは誰に似ているのでしょうか。」
48 ハイカルは大声で叫んで言った。「王である我が主君と、王座に座しておられるあなたのことを口にするのは、私には到底無理です。しかし立ち上がって、王である我が主君が誰に似ているか、また王の貴族たちが誰に似ているか、あなたに教えてあげましょう。」
49 ファラオは、彼の舌の自由さと答える大胆さに困惑した。そこでファラオは玉座から立ち上がり、ハイカルの前に立ち、彼に言った。「さあ、私に話してください。そうすれば、あなたの主君である王が誰に似ているか、また、その貴族たちが誰に似ているかが分かります。」
50 ハイカルは彼に言った。「私の主は天の神であり、その尊いものは稲妻と雷であり、主が望めば風が吹き、雨が降るのです。
51 彼が雷に命じると、雷は稲妻となり、雨が降る。彼が太陽を押さえると、太陽は光を放たず、月や星も回らなくなる。
52 そして彼は嵐を命じ、嵐は吹き、雨が降り、四月を踏みつけ、その花と家を破壊する。」
53 ファラオはこの言葉を聞いて非常に困惑し、激怒して彼に言った。「人よ、私に真実を話し、あなたが本当は誰なのかを私に知らせてください。」
54 彼は真実を告げた。「私はセナケリブ王の枢密顧問官の中で最も偉大な書記官ハイカルであり、セナケリブ王の宰相であり、王国の統治者であり、宰相である。」
55 彼は言った。「あなたの言ったことは真実です。しかし、ハイカルについては、セナケリブ王が彼を殺したと聞いています。しかし、あなたは生きていて元気そうです。」
56 ハイカルは彼に言った。「そうです、その通りです。しかし、隠されたことを知っておられる神に感謝します。私の主君である王は私を殺すよう命じましたが、彼は不道徳な人々の言葉を信じました。しかし、主は私を救い出してくださいました。主に信頼する者は祝福されています。」
57 ファラオはハイカルに言った。「明日はここに来て、私の貴族たちや私の王国や私の国の民から聞いたことのない言葉を私に話してくれ。」

## 第 6 章

策略は成功し、アヒカルはファラオのあらゆる質問に答えます。鷲に乗った少年たちがその日のクライマックスです。古代の聖書にはほとんど見られない機知が、34-45 節に示されています。
1 そしてハイカルは自分の家に行き、手紙を書いて、次のように述べた。
2 アッシリアの王セナケリブからニネベ、そしてエジプトの王ファラオまで。
3「兄弟よ、あなたに平安がありますように。これによって、兄弟は兄弟を必要とし、王は互いに必要とするということがあなたに分かります。私が

あなたに望んでいるのは、私に金九百タラントを貸していただくことです。兵士たちの食料にそれが必要なので、彼らにそれを使いたいのです。しばらくしたら、あなたに送ります。」
4 それから彼はその手紙を折り、翌日それをファラオに提出した。
5 彼はそれを見て困惑し、こう言った。「本当に、このような言葉はだれからも聞いたことがありません。」
6 するとハイカルは彼に言った。「確かにこれはあなたが私の主君である王に負っている負債です。」
7 ファラオはこれを受け入れて言った。「ハイカルよ、王に仕える者として誠実なのはあなたのような者だ。
8 あなたを知恵において完全な者とし、哲学と知識とであなたを飾った神は祝福されますように。
9 そして今、ハイカールよ、我々があなたに望んでいるのは、天と地の間に城を建てることだ。」
10 するとハイカルは言った。「聞くということは従うということです。私はあなたの望みと選択に従って城を建てます。しかし、主よ、私は石灰と石と粘土と職人を用意しています。あなたの望み通りに建てる熟練した建築家もいます。」
11 王はそれをすべて彼のために準備し、彼らは広い場所へ行った。ハイカルとその息子たちはそこにやって来た。彼は鷲と若者たちを連れて行った。王とすべての貴族たちは出かけて行き、町全体が集まってハイカルが何をするかを見ようとした。
12 それからハイカルは鷲を箱から出し、若者たちを背中に縛り付け、鷲の足に縄を結び付けて空に飛ばした。すると鷲は空高く舞い上がり、天と地の間に留まった。
13 すると少年たちは叫び始めた。「レンガを持って来なさい。粘土を持って来なさい。王様の城を建てましょう。私たちは何もせずに立っているだけですから。」
14 群衆は驚き、当惑し、不思議に思った。王とその貴族たちも不思議に思った。
15 ハイカルとその家来たちは、労働者たちを打ちたたき始め、王の軍隊に向かって叫んで言った。「熟練した労働者たちに必要なものを持って来なさい。彼らの仕事を邪魔してはいけません。」
16 王は彼に言った。「あなたは気が狂っている。だれが何かをそこまで運べるだろうか。」
17 ハイカルは彼に言った。「ああ、わが主よ！ 空中に城をどうやって建てたらよいでしょうか。もしわが主である王がここにいたら、一日で城をいくつも建てたでしょう。」
18 ファラオは彼に言った。「ハイカルよ、あなたの住まいに戻って休んでください。私たちは城の建設をあきらめました。明日私のところに来なさい。」
19 それからハイカルは自分の家へ行き、翌日ファラオの前に現れた。ファラオは言った。「ハイカルよ、あなたの主君の馬について何か知らせはあるか。アッシリアとニネベの地で馬がいななくさると、私たちの雌馬はその声を聞いて子馬を捨てるのだ。」
20 ハイカルはこの言葉を聞くと、猫を連れてきて縛り、激しく鞭打ち始めた。エジプト人がそれを聞いて、王のところへ行って報告するまでであった。
21 ファラオは人をやってハイカルを呼び寄せ、こう言った。「ハイカルよ、なぜあなたはあの口のきけない獣をこのように鞭打ったり、殴ったりするのか。」
22 ハイカルは彼に言った。「王様！ 彼女は確かに私に対してひどいことをしました。この殴打と鞭打ちに値します。私の主君であるセナケリブ王は私に立派な雄鶏を授けてくれました。その雄鶏は力強い真の声を持ち、昼と夜の時刻を知っていたのですから。」
23 そして、猫は今晩起き上がり、首を切り落として去って行きました。この行為のせいで、私は彼女にこのようにひどい仕打ちをしたのです。」
24 ファラオは彼に言った。「ああ、ハイカルよ、このすべてのことから、あなたが年老いて、老衰しているのが分かった。エジプトとニネベの間には六十八のパラサンがあるのに、どうして彼女は今夜行って、あなたの雄鶏の頭を切り落として戻ってきたのか。」
25 ハイカルは彼に言った。「ああ、我が主よ！エジプトとニネベの間にそのような距離があったなら、我が主である王の馬がいななくだるのをあなたの牝馬たちはどうして聞き、子馬を投げ捨てることができましょうか。また、馬の声がどうしてエジプトに届くのでしょうか。」
26 ファラオはこれを聞いて、ハイカルが自分の質問に答えたことを知った。
27 ファラオは言った。「ハイカルよ、海の砂で縄を作ってもらいたい。」
28 ハイカルは彼に言った。「王様、私の主君よ。宝物庫から一本の縄を持って来るように命じてください。そうすれば、私も同じような縄を造ることができます。」
29 それからハイカルは家の裏に行き、海の荒れた岸に穴を掘り、手に一握りの海砂を取り、太陽が昇って穴の中に入り込むと、砂を太陽の下で広げ、まるでロープのように編まれたようにしました。
30 ハイカルは言った。「あなたの家来たちにこれらの縄を取るように命じてください。あなたが望

むなら、私はそれらと同じような縄を編んであげましょう。」
31 するとファラオは言った。「ハイカルよ、ここには石臼があるが、壊れてしまったので、縫い直してほしい。」
32 するとハイカルはそれを見て、もう一つの石を見つけた。
33 彼はファラオに言った。「わが主よ、私は外国人であり、裁縫道具も持っていません。
34 しかし、私はあなたがたの忠実な靴屋たちに命じて、この石から錐を切り出させ、私がその石臼を縫えるようにしてもらいたいのです。」
35 すると、ファラオとその貴族たちは皆笑い、こう言った。「あなたにこの知恵と知識を与えた、いと高き神が祝福されますように。」
36 ファラオはハイカルが彼に打ち勝って、彼に答えを返すのを見て、すぐに興奮し、彼らに三年分の税金を集めてハイカルに持って来るように命じた。
37 彼は衣服を脱ぎ捨ててハイカルとその兵士たちと召使たちに着せ、旅費を渡した。
38 そして彼は彼に言った。「おお、主君の力と博士たちの誇りよ、平和に行ってください。あなたのようなスルタンはいますか? 主君であるセナケリブ王に私の挨拶を伝えてください。そして、私たちが贈り物を送ったことを伝えてください。王は少ないもので満足するのですから。」
39 するとハイカルは立ち上がり、ファラオ王の手に口づけし、王の前の地面に口づけして、王の力と存続と宝物庫の豊かさを祈って、王に言った。「ああ、わが主よ！ 我が同胞の一人もエジプトに残らないよう、あなたにお願いします。」
40 ファラオは立ち上がり、エジプトの街路に使者を遣わして、アッシリア人とニネベ人はエジプトの地に一人も残らず、ハイカルと共に去るようにと告げさせた。
41 そこでハイカルはファラオ王に別れを告げ、アッシリアとニネベの地を求めて旅を続けた。彼は財宝と多くの財産を持っていた。
42 ハイカルが来るという知らせがセナケリブ王に届くと、彼は彼を迎えに出て、非常に大きな喜びで彼を迎え、彼を抱きしめ、口づけして言った。「お帰りなさい。親族よ！ 私の兄弟ハイカル、私の王国の力、私の領土の誇りよ。
43 わたしから何を得たいかを尋ねなさい。たとえわたしの王国と財産の半分を欲しがったとしても。」
44 するとハイカルは彼に言った。「王様よ、永遠に生きてください。王様よ、私の代わりにアブ･サミクに恵みを与えてください。私の命は神と彼の手の中にあったのですから。」
45 するとセナケリブ王は言った。「愛するハイカールよ、汝に栄誉あれ！ 剣士アブ･サミクの地位を、私の枢密顧問官や寵臣たちよりも高くしよう。」
46 そこで王は、彼が最初に到着してから彼の前から去るまで、ファラオとどのように接したか、ファラオのすべての質問にどのように答えたか、また、彼から税金や衣服の替えや贈り物をどのように受け取ったかを尋ね始めた。
47 そしてセナケリブ王は大いに喜び、ハイカルに言った。「この貢物のうち、あなたが欲しいものを受け取ってください。すべてあなたの手の届くところにあります。」
48 そしてハイカルミドは言った。「王様が永遠に生きられますように。私は主君である王様の安全と、その偉大さの継続だけを望みます。」
49 ああ、主よ！ 富やそれに類するもので、私は何ができるでしょうか。しかし、もしあなたが私に恵みを与えてくださるなら、私の妹の息子ナダンを私に与えてください。そうすれば、私は彼が私にしたことに対して償いをし、彼の血を私に与え、それについて私を罪から免れさせることができます。」
50 セナケリブ王は言った。「彼を連れて行け。私はあなたに彼を渡した。」ハイカルは妹の息子ナダンを連れて行き、鉄の鎖で両手を縛り、自分の住居に連れて行き、足に重い足かせをはめて、きつく縛った。そして彼をこのように縛った後、隠居所の横の暗い部屋に投げ込み、ネブ･ハルを彼の番人に任命して、毎日パン一斤と少量の水を与えさせた。

## 第 7 章

アヒカルが甥の教育を終えるまでの寓話。印象的な比喩。アヒカルは少年に絵に描いたような名前で呼びかけます。ここでアヒカルの物語は終わります。
1 ハイカルは出入りするたびに、妹の息子であるナダンを叱り、賢明にこう言った。
2「ああ、ナダンよ、わが子よ！私はあなたに良いこと、親切なことをすべてしたのに、あなたはそれに対して醜いこと、悪いこと、そして殺人で私に報いたのです。
3「わが子よ、箴言にこう書いてある。『耳で聞かない者は、首筋で聞かされるであろう。』」
4 ナダンは言った。「あなたはなぜ私に対して怒っているのですか。」
5 ハイカルは彼に言った。「私はお前を育て、教え、名誉と尊敬を与え、偉大にし、最高の家庭で育て、私の地位に就かせて、この世で私の後継者となるようにしたのに、お前は私を殺し、私を破滅させて報いたのだ。

6 しかし主は、わたしが不当に扱われたことを知って、あなたがわたしに仕掛けた災いからわたしを救ってくださいました。主は傷ついた心を癒し、ねたみ深い者や高慢な者を妨げられるからです。
7 ああ、わが子よ、あなたは私にとって、青銅を襲ってそれを刺し貫くサソリのようであった。
8 ああ、わが子よ！あなたは茜の根を食べていたガゼルのようだ。今日は茜の根を食べ、明日は茜が私の根に隠れるだろう。」
9 わが子よ、あなたは冬の寒い時期に仲間が裸になっているのを見て、冷たい水を取って彼に注いだことがある。
10 ああ、息子よ！あなたは私にとって、石を取って天に投げ上げ、主を石打ちにしようとした人のようだった。しかし、石は当たらず、十分に高く届かず、罪と罪の原因となった。
11 ああ、息子よ！もしあなたが私を尊敬し、敬意を払い、私の言葉に耳を傾けていたなら、あなたは私の相続人となり、私の領土を統治していたであろうに。
12 わが子よ、犬や豚の尻尾がたとえ十キュビトの長さであったとしても、それが絹のようであったとしても、馬の尻尾の価値には及ばないということをあなたは知りなさい。
13 ああ、わが子よ！私は、あなたが私の死後、私の相続人になると思っていた。そして、あなたは嫉妬と傲慢さから私を殺そうとした。しかし、主はあなたの狡猾さから私を救い出された。
14 わが子よ、あなたはわたしにとって、糞山の上に仕掛けられた罠のような存在でした。雀がやって来て、仕掛けられた罠を見つけました。雀は罠に、「ここで何をしているのですか」と言いました。罠は、「私はここで神に祈っています」と言いました。
15 そしてヒバリもまた尋ねた、「あなたが持っている木片は何ですか？」罠は答えた、「それは私が祈りの時に寄りかかる若い樫の木です。」
16 ヒバリは言った。「それで、あなたの口にあるものは何ですか？」罠は言った。「それは、私のところに来る飢えた人や貧しい人のために私が運んでいるパンと食料です。」
17 ヒバリは言いました。「それでは、前に進んで食べてもよいでしょうか。お腹が空いたんです。」すると罠は彼に言いました。「前に来なさい。」そしてヒバリは食べようと近づきました。
18 しかし、罠は跳ね上がり、ヒバリの首を捕らえました。
19 すると、ひばりは罠に答えて言った。「もしそれが飢えた人々へのパンであるなら、神はあなたの施しや親切な行いを受け入れてくださらないでしょう。
20 もしそれがあなたの断食と祈りであるならば、神はあなたの断食も祈りも受け入れず、神はあなたに関する善を全うしないであろう。」
21 わが子よ、あなたは私にとって、ロバと仲良くなったライオンのような存在だった。そして、ロバはしばらくの間、ライオンの前を歩き続けていたが、ある日、ライオンはロバに飛びかかって、それを食べてしまった。
22 わが子よ、あなたはわたしにとって、麦の中のゾウムシのような存在だった。それは何の役にも立たず、麦を食い荒らすだけなのだ。
23 ああ、わが子よ！あなたは、十セアの小麦を蒔いた人のようでした。収穫の時期になると、彼は起きてそれを刈り取り、集め、脱穀し、精一杯苦労してそれを収穫し、それが十セアになったとき、主人はこう言いました。「ああ、怠け者め！お前は成長もせず、縮むこともなかった。」
24 わが子よ、あなたはわたしにとって、網に投げ込まれたしゃこのような者であった。しゃこは自分では助からなかったが、しゃこに呼びかけて、自分も一緒に網に投げ込んだ。
25 わが子よ、あなたはわたしにとって、寒くて陶工の家に入って暖を取ろうとした犬のようであった。
26 そして、それが暖かくなると、彼らに向かって吠え始めたので、彼らはそれを追い出し、噛まれないように打ちました。
27 わが子よ、あなたはわたしにとって、高貴な人々と一緒に湯船に入った豚のようだった。そして、湯船から上がると、汚い穴を見つけて、そこに潜り込み、転げ回った。
28 わが子よ、あなたはわたしにとって、犠牲をささげる道で仲間に加わり、自分自身を救うことができなかった山羊のようであった。
29 ああ、少年よ、狩りをして餌を与えられなかった犬は、蝿の餌食になるのだ。
30 わが子よ、労せず耕さず、貪欲で狡猾な手は、その肩から切り落とされるであろう。
31 わが子よ、光の見えない目は、カラスが摘み取ってえぐり出すであろう。
32 ああ、わが子よ！あなたは私にとって、枝を切られた木のようでした。そして木は彼らに言いました。「もし私の何かがあなたの手になかったら、あなたは私を切ることはできなかったでしょう。」
33 ああ、息子よ！あなたは、人々が「私たちがあなたのために金の鎖を作り、砂糖とアーモンドを食べさせるまで、盗みをやめなさい」と言った猫のようです。
34 彼女は言った。「私は父と母の計画を忘れません。」

35 わが子よ、あなたは、川の真ん中にいる蛇がイバラの茂みに乗っているようなものだ。狼はそれを見て言った。「災いの上に災いが重なる。この二つよりももっと災いをもたらす者が、この二つを統べ治めよ。」
36 蛇は狼に言った。「お前がこれまで食べてきた子羊、山羊、羊を、その父祖や両親のところに返すのか、返さないのか。」
37 狼は言った。「いいえ。」 蛇は狼に言った。「私の次にお前が私たちの中で最悪だと思う。」
38 ああ、わが子よ！ 私はお前に良い食物を与えたのに、お前は私に乾いたパンを与えなかった。
39 ああ、息子よ！ 私はあなたに砂糖水と良いシロップを飲ませたのに、あなたは井戸の水を飲ませてくれなかった。
40 わが子よ、わたしはあなたを教えて育てた。あなたはわたしのために隠れ場所を掘り、わたしを隠してくれた。
41 ああ、わが子よ！ 私はお前を最高の教育で育て、高い杉の木のように訓練した。しかし、お前は私をねじ曲げた。
42 ああ、わが子よ！ 私はあなたが私のために堅固な城を建て、その中で敵から身を隠してくれることを期待していた。しかし、あなたは私にとって地の底に埋もれる者のようになってしまった。しかし主は私を憐れみ、あなたの悪巧みから私を救い出してくださった。
43 ああ、息子よ！ 私はお前に幸せを願ったのに、お前は私に悪と憎しみで報いた。だから今、私はあなたの目をえぐり出し、犬の餌にし、舌を切り取り、剣の刃で首を切り落とし、あなたの忌まわしい行為の報いをしたいのだ。」
44 ナダンは叔父ハイカルからこの話を聞いて、こう言った。「叔父よ、あなたの知識に従って私を扱い、私の罪をお許しください。私のように罪を犯した者が他にいるでしょうか。また、あなたのように許してくれる者が他にいるでしょうか。」
45 叔父よ、どうか私を受け入れてください。今私はあなたの家で仕え、あなたの馬の手入れをし、あなたの牛の糞を掃き、あなたの羊を養います。なぜなら、私は悪者で、あなたは正しいからです。私は罪深い者で、あなたは許す者ですから。」
46 ハイカルは彼に言った。「息子よ、あなたは水辺の実を結ばない木のようだ。その主人はそれを切り倒そうとしたが、木は主に言った。『私を他の場所に移してください。もし実を結ばなかったら、切り倒してください。』
47 すると、その主人は言った。「お前は水のほとりでは実を結ばなかったのに、ほかの所にいたらどうして実を結ぶだろうか。」
48 わが子よ、鷲の老齢はカラスの若さよりも優れている。
49 ああ、息子よ！ 彼らは狼に言った、「羊から離れなさい。羊の塵があなたに害を及ぼすかもしれないから。」そして狼は言った、「羊の乳の残りかすは私の目に良い。」
50 ああ、息子よ！ 狼は学校に通い、読み書きを習うように言われた。そして「A、B と言いなさい」と言われた。狼は「私の鈴の中の羊と山羊」と答えた。
51 ああ、息子よ！ 彼らはロバをテーブルに置くと、ロバは倒れ、土の中で転がり始めました。そして、ある人が言いました。「転がらせなさい。それが彼の性分だから、彼は変わらないでしょう。」
52 ああ、息子よ！「もし男の子を産んだら、彼を息子と呼び、もし男の子を育てたら、彼を奴隷と呼びなさい」という格言は立証されています。
53 わが子よ、善を行う者は善に出会うであろう。悪を行う者は悪に出会うであろう。主は人の行いに応じて報いられるからである。
54 わが子よ、これらの言葉のほかに、わたしはあなたに何を言うべきであろうか。主は隠されたことを知り、秘密と奥義に通じておられるからだ。
55 そして、主はあなたに報い、私とあなたの間を裁き、あなたの行いに応じて報いてくださるであろう。」
56 ナダンは叔父ハイカルからその話を聞くと、すぐに腫れ上がり、破れた膀胱のようになってしまいました。
57 そして、彼の手足と足とわき腹は腫れ上がり、彼は引き裂かれ、腹は裂け、内臓は散らばり、彼は死んでしまった。
58 そして彼の最後は滅びであり、陰府に落ちた。兄弟のために穴を掘る者はその中に落ち、罠を仕掛ける者はその中に捕らえられるからである。
59 これがハイカールの物語について起こったこと、そして私たちが見つけたことです。神に永遠の賛美あれ。アーメン、平安あれ。
60 この年代記は神の助けによって終わりました。神が崇められますように。アーメン、アーメン、アーメン。